



JAPAN INTERNATIONAL ARTISTS SOCIETY

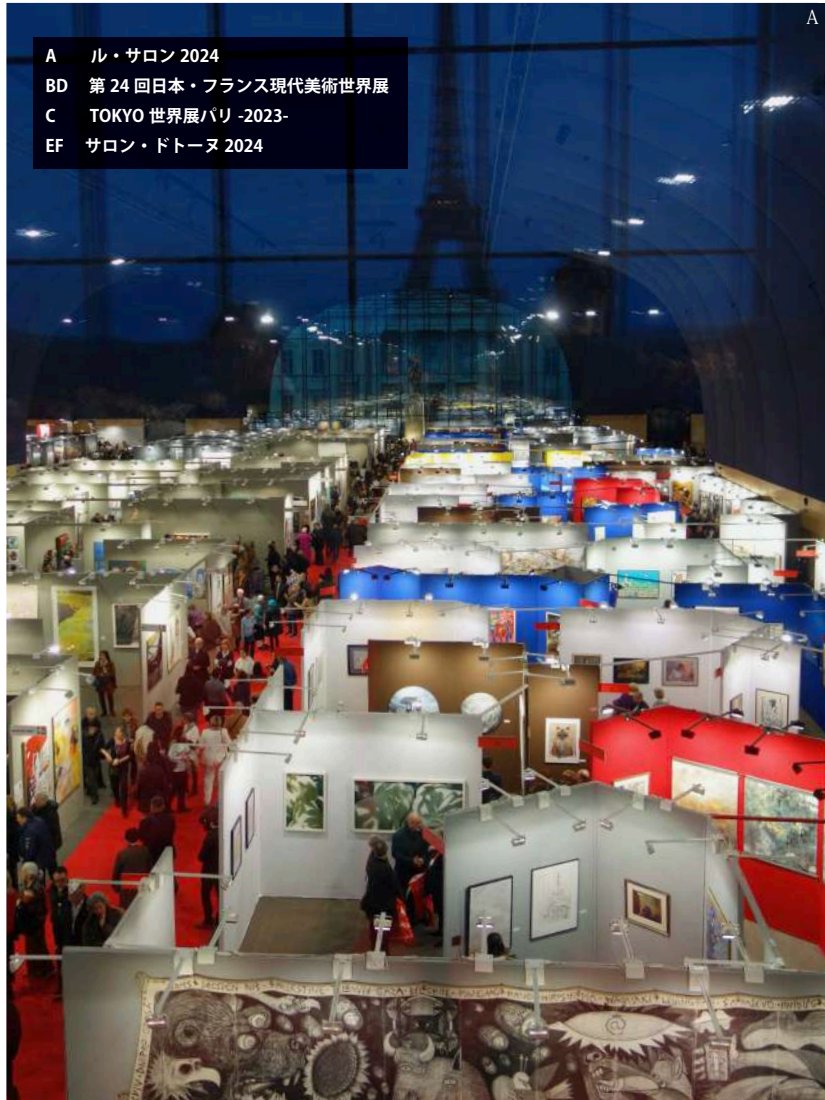
ジァス

JIAS 日本国際美術家協会

2024年  
臨時特集号

## 入賞者インタビュー特集

- ・2024年臨時特集号 インタビューについて
- ・第36回パリ国際サロン 大賞インタビュー
- ・第24回日本・フランス現代美術世界展 大賞インタビュー
- ・第2回TOKYO世界展-パリ2023- 大賞インタビュー
- ・その他の活動報告 お知らせ



A ル・サロン 2024  
BD 第 24 回日本・フランス現代美術世界展  
C TOKYO 世界展パリ -2023-  
EF サロン・ドトーヌ 2024





2024年 JIAS 臨時特集号

評価を励みに、更なる高みを目指して

## ～ 受賞者インタビュー特集 ～



MAGORI Bumpei  
馬郡 文平  
JIAS日本国際美術家協会代表 欧州美術クラブ代表

### 作家の皆さま

個性あふれ、優れた作品を世界に発信することを念頭に、海外で活躍する芸術家をはじめ、美術評論家、アートプロモーターなど様々な関係者と意見を交換させていただく機会に恵まれております。今まで以上にアートにも分野があり、作品の特徴が出やすいよう、入賞作品はジャンルを分け、できるだけ賞審査・講評の結果が反映されやすいように配慮しております。審査結果は、公式ホームページや機関紙を通じ、会員、作家の皆様に共有して参りました。受賞作家インタビューでは、それぞれの人生そのもの、経験、苦勞、努力、更なる高みを目指す数々の言葉を頂戴しました。

惜しくも、入賞されていない方や、今後入賞を目指している方にとっては、このインタビューは、他の作家の方々が日々どのように考え創作に向き合っているのかを知るのに、とても良い内容です。ぜひ、皆様にも共有いただきたいと感じ、本紙にて特集掲載いたしました。

今回の特集が、皆様のさらなる創造のきっかけや意識の向上の一助になれば幸いです。なお、本紙面で紹介しきれなかった入賞作家へのショートインタビューは SNS を通じて公開していきます。あわせてご覧ください。

### 【 JIAS / 欧米が試みている出品者への様々な形のフィードバック 】

#### 作品コメント動画を出品者へ公開しました

前回展の第 24 回日本・フランス現代美術世界展では、全ての出品作品に対して、審査員と協議した内容をもとにした、代表馬郡文平による展示会場内での一言コメントを動画にしてフィードバックしました。

※出品作家のみへの非公開動画です



#### オンラインでも様々な形式で入賞作家を掲載

大賞受賞者、および NEPU 代表作家などへのインタビューはホームページでも公開しています。また各展覧会報告ページでは全ての入賞作品が紹介されています。本紙面にて紹介がしきれなかったその他入賞作家・優秀賞インタビュー等は SNS にて順次発信されます。



### JIAS 日本国際美術家協会



JIAS は欧州美術クラブの世界美術文化交流並びに啓蒙運動の象徴体として 1981 年 1 月 1 日に発足した非営利団体です。JIAS 会員及び JIAS 関連展覧会は、絵画・書・工芸のジャンルに留まらず、国際的観点を持ち、個性的・独創的に活動を続ける多様な作家を幅広く対等に受け入れています。我々 JIAS は単なる画一的な集団ではなく、展覧会を通じた様々な国際的アート活動により、更なる世界的拡がり続けるべく前進し続けています。

# 第36回 パリ国際サロン 2023 大賞

大賞受賞インタビュー 倉数 和文 KURAKAZU Yasufumi



大賞受賞作品 倉数 和文 「白い花」水墨画 71.0 × 50.0

## <大賞受賞に際し>

この数年に色々な事が重なって、自分の中に迷いがあつた中、パリ国際サロン「ドローイング・版画コンクール部門」に出品しました。何かがそこに引き寄せられるように描いたこの作品に対して大賞をいただきました。このことで夢から覚めた感じがしました。この10年間なんとなく変に拘っていたものが、心から自然に「ル・サロン」金賞を受賞した以前の自分に戻れた感じがしました。

## <制作上で工夫>

心の闇—そこに光が。  
そんな心の光明を描いたら、どのようになるのか?と考えると、その暗い空間に「希望の光」が花に当たった感じを描きたいと思いました。



日本・フランス現代美術世界展 (2023) より



2012年ル・サロン金賞受賞品

## <制作を始めたきっかけ>

地元の唐津市にある石造り門でアーチ形の窓の建造物を、子供なりに面白いなあと感じていました。中学の夏休みのスケッチの課題に、その旧唐津銀行本店建物を水彩絵具で描き提出。1965年の第14回全国児童生徒作品コンクールにおいて特選になりました。後日その銀行は辰野金吾の監修による弟子の田中実の設計だと知りました。辰野氏は明治時代にイギリスに留学してヴィクトリア様式の1つであるクイーン・アン様式を日本化、それを辰野式と呼ぶようです。それともう一つ、母が所有の西洋美術全集、日本美術全集、美術雑誌などの影響です。100冊ぐらいありましたでしょうか。名画たちを見ていると、その時代や、その時代の人物の表情、服装、そして光・陰影の美しさなどがあることに気付き、それらを“模写する”ことで絵画の世界に心惹き付けられている自分がいました。



旧唐津銀行本店個展での個展 (2017)、レンブラント、モーリス・カンタンの模写 (1971・72)

## <今後、挑戦したいこと>

サロン・ドトーヌ展には(物事から生れて来る事をカラーで自然の秩序の真理、人の心、物事の真理その形を有形色で。ル・サロン展には(人の心から生まれる調子をモノトーンで)人の愛を長年表現してきました。内面の表情としての調子、心など光と空間などに心が引かれているので、女性の人体を借りその心を紙の上に映していきたいです。



サロン・ドトーヌ (2024)

## <今後の活動や皆さんへのアドバイスがあれば>

絵は自由です。だから難解だが、おもしろい。答えはあるけれどそれは1つではない。大事な事は絵を描くことが好であること。なにかに心引かれる感じを大切にすること。絵としての美しさに出会った喜びに感謝すること。高い山はゆっくりと。

## 倉数 和文 プロフィール

佐賀県唐津市生まれ  
九州産業大学大学院芸術研究科芸術修了  
・日仏現代美術展、コンパレソン賞、クリティック賞、佳作賞  
・ル・サロン展 2012年 金賞受賞、銀賞、銅賞  
17年連続入選  
・フランス学士院「芸術アカデミー」より永世幹事  
アルノー・ドートリーブ氏選賞2009年  
・アシル・フル・スターベイ2等賞  
・サロン・ドトーヌ展  
・パリ国際サロン大賞受賞2回



現在、ルサロン永久会員、サロン・ドトーヌ会員

※インタビューの全文はホームページにて公開しています

◆優秀賞作家へのショートインタビュー SNS にて公開  
第36回パリ国際サロン 優秀賞作家へのショートインタビューも SNS にて順次公開予定です



caea\_japon



# 第24回日本・フランス現代美術世界展 2023 大賞

大賞受賞インタビュー 大和田 明代 OWADA Akiyo JIAS会員



大賞受賞作品 大和田 明代 「蒼い月」油彩 53.0 × 73.0



パリ国際サロンミニ個展部門 (2019) 展示風景より



ベルギー・オランダ美術賞展 (2015) 展示風景より

## ＜大賞受賞に際し＞

2023年は私にとって、バンジージャンプを何回も何回も余儀なくさせられたような恐怖の一年でした。

そんな中の大賞受賞はホント嬉しかったです。ひさびさの喜びでした。私の作品は私の中の《残像》によって生まれます。今回の受賞作品「蒼い月」もそうです。波岸にすわり海を見ると、日頃荒々しい波が、時に湖面のようになります。そんな時、月夜であったりすると「抒情詩」がうまれます。



日本・フランス現代美術世界展 (2023)



サロン・ドトーヌ (2021) 展示風景より

## ＜絵画を始めたきっかけ＞

子供の時より絵日記を書くことが好きでした。思いのまま心の内をダラダラとよく書きました。いっぱいになって、見られないようにしまっておくことが大変になりました。それで、絵の中にしまっておくことになりました。それが絵画の道を選ぶきっかけをつくってくれましたかしら!?

恩師でもある美術評論家 故・植村鷹千代先生が、「心象画家 大和田絵画」と評論してくださった折りは嬉しかったことを思い出します。



国立新美術館 エスパス・プリヴェ (2020)



スペイン美術賞展 (2018) 展示風景より

## ＜テーマやモチーフはどのように＞

考えてモチーフを決めることはありません。その時々心にのまます。代表作が《海》でありますように、海が好きです。が、空を見上げることも好きです。雲の動きを追うことが好きです。

## ＜これからの抱負など＞

JIAS関連展に出品できたらいいな〜…とっております。プロフィールもすぐに過去のものとなります。されど積み重ねあってこそ今の和和田絵画です。挑戦することが好きな私は常に「ここから」「ココカラ」と自身で楽しみにしております。こと切れるまで「ここから」と言っていそうです。久々に個展をしたいな〜。

## 大和田 明代 プロフィール

心象画家として独自の画風を見出す。国際 LAICA 美術評論家 植村鷹千代により「大和田絵画」として高い評価を得る。1987年より個展を中心に国内外にて活動。紺綬褒章授与



Paris COMPARISON 招待出品。

日本・フランス現代美術世界展、パリ国際サロン、ドローイング・コンクール美術賞展：ベルギー・オランダ (2015)、イタリア (2017)、スペイン (2018)、クロアチア (2020) 出品 パリ国際サロン賞、優秀賞。サロン・ドトーヌ入選 (2015・16・2021)。ル・サロン入選 (2021)。第25回日本・フランス現代美術世界展 壁面特別展示 (エスパス・プリヴェ) 招待出品予定

JIAS 日本国際美術家協会会員

※インタビューの全文はホームページにて公開しています

◆優秀賞作家へのショートインタビュー SNS にて公開  
第24回日本・フランス現代美術世界展 優秀賞作家へのショートインタビューも SNS にて順次公開予定です



## 第2回 TOKYO世界展 -パリ2023- 大賞

大賞受賞インタビュー 栗原 光峯 KURIHARA Koho JIAS会員

大賞受賞作品 栗原 光峯 「行雲」  
大字書 400.0 × 150.0

TOKYO 世界展 (2023) 展示風景



フィンランド美術賞展 (2019)



フィンランド・ワークショップ (2019)

## &lt;制作時に特に工夫された点&gt;

アトリエに広いスペースを確保し、二胡演奏に合わせて優雅にパフォーマンスをお見せする様に書きました。(因みに曲目は愛・燦々です)気をつけた点は緩急、遅速、潤滑、余白美ですが、この時は一旦それも忘れて書いた様な記憶があります。

## &lt;現在のスタイルをどのように確立したか&gt;

現在のスタイルは何種類もまだ同時進行中です。4mの縦型大作では書を全面に出して、書を持つ独自のエネルギーをお見せする事を主としています。

数年前、家族の病から筆が持てなくなり、やむなく墨の濃淡だけを雲母紙に置いて出展したのを機に日本画のたらし込み技法に興味を持ちました。その頃パリでテロが起き、国際サロン展の為の出国が叶わなかった折にその混沌を憂いて、書とたらし込み技法の融合『瞠目』が完成しました。30代後半からパフォーマンスや個展で欧米を訪れる度に必ず立ち寄る各国の現代美術館。そこから吸収する概念がかなり私に影響を与えて来ました。フランスで観た草間彌生のピンクだけの部屋、イタリアで観たルーチョ・フォンタナの空間概念、藤田嗣治のサロン活動の積極性と乳白色の肌に見る日本画技巧と逆転の発想そして、筆の線質は特に私に強烈な印象を与え続けています。

## &lt;普段の制作スタイル&gt;

普段は週5日北九州市の地元で和楽書院という教室を主宰しながら、月一ペースで個展やパフォーマンスを開催しています。地元のイベントオープニング〜海外展まで幅広く、筆をリュックに背負って地球を何周かして参りました。近年は地元の学校行事や平和奉納揮毫で寺社教会や記念公園を訪れる事も増え、本来、筆文字が持っている想像を超越した『結界』のようなものに気付かされつつ充実した日々を送っています。



## &lt;新たに挑戦されている作品や、今後のテーマ&gt;

新たに挑戦しているテーマは、森羅万象の中に有る普遍性です。たらし込み技法の一步先を見つめ、顔彩を多彩に使用しながらも、Earth color、特に「日本の蒼」をどう表現していけばよいか試行錯誤中です。

## &lt;これから海外展へご挑戦される方へ&gt;

これから国際展に出されるか迷っている方へ。是非出品をオススメします。パリに出品する時はフランス、パリの歴史と文化を、コルシカ島に出品する時はコルシカ島の文化と歴史を学んでから作品を作りますよね。それは私の場合、シチリアも、フィンランドも同様でした。海外展に出す！と決めた瞬間から頭の中の地球儀はクルンと動きその地の情報が一気にインストールされ始めます。情報収集、テーマ決定、作品制作、めでたく出品。実際訪れるとなると、旅行準備の時からずっとワクワク感は続きます。靴下一足買う時も気持ちが高揚しています。一緒に行くお仲間は皆、美しいものを美しいと感じる共感者達。欧州美術クラブさんを通じて出逢わせていただいた、美術界やオフィシャルの方々、そして、欧米の先輩方やお仲間という宝物を得る事が出来ます。何より、自分の作品が欧州の風と光に包まれて飾られている姿は全く日本のそれとは違って見えます。馬郡代表をはじめスタッフは皆さんフランクで暖かく、家族のように親身になってくださいます。迷った時は必ず自分にこう問います。一度切りのわたしの人生…憧れの草間さんや藤田さんより思いっきり色濃く生きてみたい!と。

## 栗原 光峯 プロフィール

1964年 北九州市生まれ 和楽書院主宰  
小倉北美術協会会長  
WBT 和プロジェクト TAISHI。38歳より活動を開始。  
大筆をリュックに背負い欧米 Asia を歴訪、個展やパフォーマンスで現地の人と交流。偶然のきっかけで日本画のたらし込み技法に出会い薄墨と濃い墨が抱き合う『抱擁シリーズ』が偶然出来上がる。ル・サロン、サロントーンヌ入選。TOKYO 世界展大賞受賞等、ほか受賞歴多数  
混沌が続く世に究極の安心感を求めて独自の世界感を探究し続ける。テーマは『愛と慈しみ』



JIAS 日本国際美術家協会会員

※インタビューの全文はホームページにて公開しています

◆優秀賞作家へのショートインタビュー SNS にて公開  
第2回 TOKYO 世界展 優秀賞作家へのショートインタビューも SNS にて順次公開予定です



caea\_japon



## 上位入賞者 ショートインタビュー

① 受賞作品制作のきっかけ ② 見て欲しいポイントやこだわり ③ 今後挑戦したいこと、制作したいもの



### 第36回 パリ国際サロン 2023

ザッキ賞 杉本 秀子 JIAS会員

「名木」 油彩 80.0 × 100.0

① 上野で私の絵を見た千葉県の新聞社の方が、良い木があるので描いてみてはと紹介してくれたものです。私の家からは遠くて大変なのですが、まず2月に現地に行き幹・背景をスケッチ、4月に再度行き描き上げました。

② 小桜とは言え、樹齢300年以上とのことで、その力強い姿を堪能していただけたらと思います。

③ やはり桜を描き続けたいと思っています。そして可能ならば、地元、裾野市に有る木を、日本のみならず、世界の人々に紹介したいと願っています。



### 第36回 パリ国際サロン 2023

ユニバーサル・デザール賞 片野 栄子 JIAS会員

「広瀬集落・冬」 版画 59.3 × 41.4

① 取材で、昔の私の山暮らしを想起させる風景に出会いました。厳しくも美しい自然、若い私を無償の愛で支えてくれた雪深い地の人達。遠くに集落を望むこの美しい風景を、私の思い出と重ね合わせて描こうと思いました。

② この地の静かな暮らしとそれを包む凜とした空気です。力強さを強調し色は深紫の単色。また、奥行きを出し澄んだ空気が見えるよう、遠い集落は細かくアートナイフで、摺りは濃淡に拘り望む色になる迄色を重ねました。

③ これからも、雪国の自然と暮らしや何気ない日常の美しい光景を描こうと思います。今、挑戦しているのは有彩色の雪景色。色が入ると私の絵は力不足で意図が惚けます。クロード・モネ作「かささぎ」は、私の永遠の目標です。



### 第36回 パリ国際サロン 2023

ロワリエ賞 篠原 文子 JIAS会員

「夏山」 油彩 72.7 × 90.9

① いつもとは違う道から入って、大山へと向かいました。見慣れない景色が続き、目の前に現れた壮大な大山の姿に圧倒されました。夏山の心象を織り交ぜて描いた作品です。

② 細部へのこだわりを持って描き込んでいきました。自身の内面にあるものを凝縮し、加筆して出品しました。全体がひとつになって響き合っているように見えてきます。

③ 以前に描いた百合の絵を見つけました。又、描いてみたいと思い、百合を捜して花瓶に生けました。構図に苦戦中です。初雪の予報を受け、久しぶりに大山へと出かけたりもしています。



### 第36回 パリ国際サロン 2023

ドローイング大賞 阿部 秀三郎

「激怒清翠」 木版画 45.0 × 60.0

① 奥入瀬の流れを版画にしたい時に、無駄をはぶきどのように描くかを追求していったら、川の流れと、岩だけの版画となりました。

② 水の流れは、上から下に、自由に流れ、岩に当たり、逆流したりもまれたり、それでも流れは下に行きます。自由な姿を写したいものです。

③ 水の流れ、海の波、荒ぶる姿、静かな姿、千差万別の形を表したいものです。



### 第36回 パリ国際サロン 2023

ギャラリー・デュ・マレ賞 横山 弥生 JIAS会員

「Days gone by #1」 CG 85.0 × 85.0

① 長い間抽象作品ばかり制作していましたが、ある日を境に急に女性を描きたくなりました。官能的で過去やこだわりやプライドなど何かをまとっている少しミステリアス女性です。

② 作品制作はデジタル技術を多く利用していますが、デジタルの香りを出さないことを意識しています。本作品は人体の具象表現と纏っている白の曲線による抽象的な面白さで構成をし、そこを見ていただきたいと思いました。

③ 陰影とカメラアングルによって表情が変化する一瞬を見逃さないように、カメラマンの眼を持つような作品制作に挑戦してみようと思っています。また、シルクスクリーンなどの技術も取り入れたいと考えています。



### 第2回 TOKYO世界展-パリ2023-

準大賞 渡部 昇

「Louvre Museum」ダンボールにアクリル 72.8 × 103.0

① 2019年にパリ国際サロンのミニ個展部門出品の際、初めてパリを訪れた時のルーブル美術館。色々撮影した中で、この写真にパッとイメージが膨らみ、制作するきっかけになりました！

② この作品から、空間の広がりや奥行き感が感じられ、心地良く見て頂ければと思います。

③ 今後もパリ、NYを題材に、以前からのテーマ「音を視覚的に表現する」事に拘って制作していきたいです。

## 上位入賞者 ショートインタビュー

◆その他の優秀賞作家へのショートインタビューは SNS にて公開予定！ 

※事務局ヘインタビュー回答をいただいた方のみ掲載しています



## 第2回TOKYO世界展-パリ2023-

準大賞 高橋 美香子 JIAS会員

「平安」ミクストメディア 73.0 × 91.0

①平安時代の優美で華やかなイメージを連想させる世界に、今の世界平和を切に願う気持ちを込めようと思ひ筆を執った。

「世界の人々が、美しい月や花を愛でる日々でありますように」と祈りつつ。

②工夫を凝らし、時間をかけたマチエール。

③今までの作品プラス、コラーージュを取り入れたもの。様々な素材を使って独自のマチエール作りをした、抽象画。



## 第2回TOKYO世界展-パリ2023-

バステューユ賞 船田 春光 JIAS会員

「Hallucination auditive (幻聴)」 装芸画 80.0 × 100.0

①「La rime du ciel (天国の律べ) に続く、若くして亡くなった親友への想いを込めた作品です。生前彼女から頂いていた貴重な緞子で作りました。

②目に見えない世界に留まっている魂の存在を、如何に素材の布や金蘭、砂子の散らし方などで表現したかを感じ取って頂きたいです。

③日本独自の伝統的な技法を最大限に活かして、まだ意識の底に眠っている世界を、発掘して国内外を問わず、心に届くような作品を制作して行きたいと思ひます。



## 第2回TOKYO世界展-パリ2023-

バステューユ賞 運天 一恵 JIAS会員

「月と太陽のまどい」 染色・型染 397 × 83

①4mの長さを考え、下地を染める事は難しいが《紅型》の特性を活かし繰り返し型を展開することで作品を自由に広げられます。“タペストリー”

は着物とは違い、飾るものなので、見て、楽しめるような作品にしようと思ひました。

②普通の染料は日焼けで色落ちてしまうが、紅型はいつまでも鮮やかな色を保て、細部まで自由自在に染められます。顔料自体が強いので地色は地色のままにしました。全てを工房で一人で制作するので、自分のできる範囲で頑張っています。

③欧米/JIASの企画展にあわせ、いつも頑張ります。8月の世界展では先代の馬郡代表の勧めで準備おしたが展示できなかった04年美術賞展作品を、新作と共に発表したいと思ひます。



## 第24回 日本・フランス現代美術世界展

準大賞 加藤 由利子 JIAS会員

「朝もや」 日本画 65.3 × 162.0

①寒い川の中で、羽を広げたい、、、1羽のサギ。翼を広げ濡れた羽を乾かしている姿を見て、銀箔とのコントラストを描きたくて、、、。

②濡れた羽・乾いている羽、全体の寒さ、川の冷たさ、川の流れ、水に写るサギの姿など、、、色々な部分の表現や雰囲気を見て欲しいです。

③屏風に再び挑戦したいです。1. 荒々しい波 (岩にぶつかった波のしぶき、岩肌のごつごつした部分を描いて見たい) 2. 燃え盛る炎の動き、立ち上り、天に舞い上がる動き、赤々とした色を追及して見たい 3. 各地の御神木 (うねりのある木肌)



## 第2回TOKYO世界展-パリ2023-

バステューユ賞 阿部 朱華羅 JIAS会員

「天地初発之時」 タペストリー 400 × 120

①世界中で災いにより悲しみのニュースが絶えず未来が不安になる、出来ることは何かと考えた時、観た方が生きるパワーを感じていただけるような...心身に気が満ちる力強くあたたかい光の

エネルギーを描きたいと祈り、制作しはじめました。

②古事記の冒頭天地初発之時から天地が此の世に出現した瞬間の柱の生命エネルギーと平和と平安の祈りを込めて。絵と一体になっていただく。絵の根本に立たれ、足下で地を感じ、頭上で天を感じ、心で絵からの生命パワーと光のエネルギーを感じていただけたらと。

③「日常=祈り=制作」地平天成を祈りを込め、魂が元気になる絵を描きたい。古来からの日本文化を深く学び日本の美と魂を世界に未来に繋いでいく活動をしてまいりたい。



## 第24回 日本・フランス現代美術世界展

準大賞 小野寺 浩

「爆睡」 色鉛筆、パステル 80.3 × 100.0

①自宅に家族の一員として生活してますのでモチーフとしては最高です。一緒に居る事で見る表情や仕草をと思ひ「爆睡」した時の何とも言えない可愛い顔を見て貰えたらと描きました。

②「爆睡」なので目を閉じてるのですが寝てる顔の表情からでも真ん丸した目が見えたらと思ひ描きました。また小さな野獣の証の爪もしっかり有る点も見たいです。

③自分は色鉛筆とパステル画材で描いてますが他の画材と相性の良い物が有れば取り入れて新しい表現で描きたいです。「色を聴く」を楽しみながらメロディーと音を聴きながら描いています。





第24回 日本・フランス現代美術世界展

サロン・ドトヌ賞 東野 穂澄 JIAS会員  
「ウサギの月旅行」アクリル 60.6 × 72.7

- ①空を見上げると、きれいな月があります。その月に2人で旅行出来たら良いなあという想いから制作しました。彼がピアノを弾いて、私が歌って楽しい旅の始まりです。
- ②ほのぼのとした、夢のある世界観を表現しました。イチゴ・ぶどう・たまご等の身近な物で、親近感を表現しました。
- ③これからもシュールリアリズムを目指して、会話が聞こえてくるような絵を描いていきたいです。



第24回 日本・フランス現代美術世界展

パリ国際サロン賞 春日 友子  
「己」 沈金 33.3 × 24.2

- ①輪島漆芸研修所の研修生時代に「鳥」という課題が出ました。本作品はおよそ25年程前に制作した物です。

元々猛禽類が好きだった事もあり、ミミズクのアップを選び、観る方の心を見つめるようなアングルにしました。

- ②眼以外の羽と嘴は銀粉を使い、銀の経年変化により変色をすると考え、嘴部分に透明の漆で薄く保護。25年が経過して狙いどおりに嘴は銀の輝きを残し羽は様々な色に変色しています。どの角度から観ても目が合います。

- ③今後も私の心が奪われる景色やモチーフを、漆面にノミで彫り金粉等を使い表現する事で、皆様とそれらの美しさを共有したいと思います。



第24回 日本・フランス現代美術世界展

エスパス・ブリヴェ賞 小林 翔己 JIAS会員  
「刻は木の葉のように」油彩 91.0 × 116.7 他 4点

- ①「刻は木の葉のように」は、北海道遊覧船沈没のニュースを見てヒントを得ました。人命の儚さ、無常、波に身をゆだねる

木の葉のようにたやすく流れてしまうのだと感じました。他3点は表現の幅を広げる為普段とは意図的にかえた実験のような存在です。

- ②色彩と細密描写です。色彩は一層目の段階で、経糸、緯糸を織りなすように様々な色を混ぜておき、それを何層か繰り返し納得のゆく色にしてゆきます。

- ③古来より、ギリシャ神話は様々な国の様々な画家によって作品として視覚化されており、ロマン主義の頃から新たに北欧神話も一つの画題として取り上げられるようになりました。古今東西の神話、民間伝承、信仰を油彩という手段で視覚化してゆきたいと願っております。

◆その他の優秀賞作家へのショートインタビューはSNSにて公開予定!



2024年 JIAS 活動内容・予定

主な JIAS 関連の活動予定年間スケジュールです。展覧会開催時には、SNS やホームページを活用し、リアルな現地情報をお届け致します。会員各位の積極的な応募・参加をお待ちしております。

サロン・ドトヌ 2023/24 (主催:サロン・ドトヌ協会)

会期:2024年1月17日(水)~21日(日)  
会場:ラ・ヴィレット・グランド・ホール  
※会期を23年10月から移しての開催

ル・サロン 2024 (主催:フランス芸術家協会)

会期:2024年2月13日(火)~ 18日(日)  
\*2月13日(火)はベルニサージュ  
会場:パリ市 グラン・パレ・エフェメール

第37回パリ国際サロン/ドローイング・版画コンクール

2024年 3月28日(木)~31日(日)  
会場:バスティユ・デザイン・センター  
ギャラリー・デュ・マレ

第25回日本・フランス現代美術世界展 2024

会期:2024年8月8日(木)~8月18日(日)  
会場:東京・国立新美術館3A・3B展示室

応募締切 2024年5/8(水)

2024年 JIAS 新会員 ようこそ! JIAS へ

2024年 JIAS 会員に入会された新会員です。



牧山 勝美 (千葉県)



中山 久乃 (埼玉県)



富美 七朗 (東京都・再)



大澤 いづみ (東京都)

その他 お知らせ

- 2024年度 JIAS 定時総会は、8月上旬頃、日本・フランス現代美術世界展の開催時期にあわせて予定しています。日時の詳細は6月頃、会員の皆さまへご連絡いたします。

- 東日本大震災被災地支援チャリティー「陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈るプロジェクト」ご支援をお待ちしております。

【陸前高田の絵の好きな子どもたちに画材を送るプロジェクト】

銀行振込・郵便振替・現金書留にて受付けております

★銀行振込:

●みずほ銀行 日本橋支店 普)1634027 欧州美術クラブ

●三菱東京UFJ銀行 日本橋支店 普)0128429 欧州美術クラブ

★郵便振替:記号)1010(番号)77876481 欧州美術クラブ

★現金書留:欧州美術クラブ

「陸前高田の絵の好きな子どもたちに画材を送るプロジェクト」係宛

- 会員の活動をホームページ、Facebookなどでも広報しています。個展やグループ展などのご予定がありましたら、お気軽に事務局までお伝えください。JIAS日本国際美術家協会ホームページ内、JIAS公式 Facebookにて、個展等ご活動の告知・案内をいたします。 ※開催の2週間前までには事務局へハガキ・メール等でご連絡ください